



災害ボランティアセンターの組織について

- 
- ②活動現場に到着したらグループリーダーと接触し、困ったことは無いか、体調が悪くなっている人や無理をしている人はいないかを確認するとともに、ニーズ依頼者にも声をかける
 - ③グループリーダーから不足資材・増員等の要望があったらセンターにその場で報告する
 - ④負傷や体調を崩したボランティアがいたら、下記(3)により対処する。
※重症度によっては救急車の手配をし、センターに連絡すると共に、(様式「救護-3」)ボランティア活動に伴う傷病者記録に記録する
 - ⑤天候の変化、危険個所や高所での活動等、活動継続に支障が生じる可能性に気付いた場合は、センターの判断を仰ぐ
 - ⑥暑い日には予備の飲料水や熱中症予防食品を多めに持って巡回し、各活動現場に配布する
 - ⑦巡回中にボランティアが入っていないで困っているような被災者を見つけた場合は、センターのチラシ(様式「ニーズ-2」)等を配布して案内をする
※ボランティアニーズ受付票(様式「ニーズ-1」)も携帯する

(3) 負傷や体調を崩したボランティアが発生した場合

- 
- ①移動できる場合には救護所に連れて行く
 - ②医療従事者がいる場合には診察・手当をしてもらう
(※医療従事者がいない場合は応急手当をする。)
 - ③病院に行くかどうかを当事者に確認をする
 - ④負傷や体調を崩した経緯について聞き取り、ボランティア活動に伴う傷病者記録に記録する
(ボランティア保険用や再発防止のためにしっかり聞き取る)
 - ⑤状況に応じて救急車の手配をするとともに、センター長に報告する
※搬送先は必ず確認する
 - ⑥ボランティア以外で傷病者が発生又は遭遇した場合は、出来る限りで応急手当を行い、あらかじめセンターで対処方法(直接救急車を呼ぶのか、センターの救護班に連絡をするのか等)を定めておき対処する
 - ⑦夕方のミーティングで報告し、スタッフ間の周知を図る

(4) ボランティアが活動を終えて戻ってきた時

- ①必要に応じて長靴等の消毒指導をする ※大きな桶等に消毒水を入れて通過させる。
- ②手洗い・うがいの場所を設けて指導をする
- ③負傷や体調を崩したボランティアがいらないか確認する
- ④グループリーダーに簡易応急セット等を持たせている場合には回収する
- ⑤(様式「救護-4」)を配布し、ボランティアに惨事ストレスについての注意喚起をする